

げんき

No.55

兵庫県立こども病院
ニュースレター



カエル



平成28年(2016) 10月1日

新しいこども病院に命を吹き込む



副院長兼看護部長

藤久保 真季

平成28年5月1日、明け方より病院の大移動が始まりました。超重症患者さんも居られたため、緊張の中での移動でしたが、職員の丸となった力と、警察・消防署の方々のご協力で、無事終了することができました。

病院は大きく綺麗になりましたが、引っ越し前は寒々としていました。しかし、その器に人が入ると、明るく暖かくなり、本当に新病院に血が通いはじめたなど、実感しました。現在は、夏休みの繁忙期でもありますが、病院全体が活気に満ちています。これからは、新しい建物に負けないように、中身を洗練させなくてはなりません。

緑の公園を抜けると正面玄関があり、建物に入ると海・森・空で遊んでいる「かえるくん」が音楽に乗り顔を出すからくり時計が迎えてくれます。壁も白を基調とし、パステルカラーがアクセントとなり、明るく優しい雰囲気を感じ出しています。病室は広く、外の光が入ってきます。ご家族がゆっ

くり休んでいただけるよう、ソファベッド、シャワー、コインランドリーも整えました。小学校、中学校の院内学級もでき、先生も常駐されています。このように少しでも患者さん、ご家族が安らげる環境を整えてまいりました。隣には、神戸ハウス(マクドナルドハウス)が建てられ、ご家族・同胞が安心して泊まれるよう200名以上のボランティアの方々が支えてくださっています。

更に新しいこども病院では、高度で先端的な医療に加え、こども達が自家へ帰る支援が出来るように在宅支援病棟を設けました。こどもは自家へ帰るとめまぐるしい成長をします。「うちに帰ろう」を合い言葉に、個々に合わせた退院支援を行ない、地域との連携も強化し、安心して在宅に移行できるよう取り組んでいきます。当院の看護師も積極的に地域へ出向きたいと考えております。

システムも大きく変わりました。病院情報システム(電子カルテ)の導入です。電子カルテは、どこでも情報の共有ができ、依頼、実施、報告がスピーディ且つ確実に行えることにより、作業の効率化が図れます。まだまだ不慣れなところが有りますが、看護師は「小児看護は、笑顔看護」のスローガンを基に、こどもとご家族の輝く笑顔を引き出せるよう、新たな気持ちで頑張っております。これからもご支援のほど、よろしくお願いたします。



新病院の紹介



総務部(新病院担当)

5月1日に開院した新こども病院施設について、内装デザインや来院者の方々へのアメニティの向上に配慮した部分を中心にご紹介したいと思います。

内装デザインですが、新病院はポートアイランドに立地し、海に近く緑豊かな公園に隣接していることから、「うみ」、「みどり」、「そら」という3つのテーマにより各フロアや各部門をデザインしています。

患者さんやその家族に、ゆとりや癒やしを感じる空間を提供するため、シンプルな空間の中に暖かみのある手作りアートを点らせています。

特に、エントランスホールにある大きなアートの木「百色(ももいろ)の木」は、患者さんが作成した切り絵をモチーフとしており、かけがえのない命を大切にすることも病院のシンボルとして位置づけています。

テーマ	内容	部門(フロア)
うみ	ブルーを基調に魚のアートを点在	放射線部門(8F、1F)、生理検査部門(2F)、手術室(4F)、救急・集中系病棟(4F)、病棟(5F)
みどり	グリーンを基調に森や木々のアートを点在	エントランスホール・総合待合(1F)、薬剤部門(2F)、病棟(6F)
そら	スカイブルーを基調に鳥のアートを点在	外来ブロック(1F)、中央検査部門(2F)、リハビリ・精神科・地域連携部門(2F)、病棟(7F)

また、当院を訪れる患者さんやご家族の気持ちしが安らぐよう、ゆとりのあるスペースの中にクッションマットを敷いたプレイコーナーを分散配置し、絵本やおもちゃも備えつけるなど、多様な居場所を設けるとともに、総合待合には、こども病院のイメージキャラクターである「元気カエル」をモチーフとしたからくり時計を設置しました。

さらに、病室は、前の病院と比べると約2倍程度に広くなっており、付添いを希望されるご家族のため、ベッドサイドにソファベッドを置いています。

一般病棟にもプレイコーナーを配置し、入院されている患者さんの療養環境の整備に努めています。また、5階病棟からは屋上庭園に出ることができまので、潮風に吹かれながら景色を楽しんでいただくこともできます。

以上のように、新しいこども病院の施設は、旧病院とは違い、広く、癒しや温かみのある空間を提供することで、一人でも多くのこどもに元気な笑顔で家に帰ってほしいとの願いが込められています。今後とも、新しく生まれ変わった病院をよろしくお願いします。



百色の木



元気カエルのからくり時計



そらをイメージした外来



リハビリテーション科のご紹介

理学療法室、作業療法室、言語聴覚療法室が新たに整備され、リハビリテーション科として開設いたしました。

こども病院には救急搬送されるお子さまや、発症・術後から間もないお子さまが数多く入院されています。お子さまの状態に応じて、より充実したリハビリテーションを提供できるよう取り組んでまいります。

〈リハビリテーション科スタッフ〉

部長 小林 大介

理学療法士 2名、作業療法士 1名、言語聴覚士 5名(非常勤言語聴覚士 1名含む)

〈理学療法〉



病気やけがにより運動機能が影響をうけ、座る・立つ・歩くなどいろいろな動作が困難になっている方や、身体機能(呼吸など)に影響を受けている方へのリハビリテーション、発達がゆっくりとなっている方への発達支援の二つを中心に行っています。またバギーや車椅子、坐位保持装置などを作製される場合、他部門と連携し必要に応じて製作過程から関わります。

〈作業療法〉



遊びや作業場面を通じて日常生活での動作(食事・着替えなど)や発達(運動、感覚など)の支援を行います。お子さまの発達に適した環境調整(おもちゃの位置や種類、場面設定など)を生活の中に取り入れやすい形でお伝えし、日常の抱っこや遊びの場面で反映できるようにします。お子さまの年齢に応じて退院後の学校生活も考慮した支援を行い、必要に応じて福祉用具の製作過程に関わります。

〈言語聴覚療法〉



ことばや聞こえ、食べたり飲み込んだりといった機能に難しさを抱えているお子さまに対して、知識・専門性を活かした評価・助言・支援を行います。

特に形成外科と連携した口蓋裂術後の言語訓練や、耳鼻咽喉科での難聴の早期発見・早期支援に力を入れています。



わが家のようにくつろげる第二の家、神戸ハウス

5月1日、こども病院に隣接して同時にオープンしたのが「ドナルド・マクドナルド・ハウス 神戸」(神戸ハウス)です。

神戸ハウスはこども病院に入院または通院される20歳未満の患者さんと、その家族のための滞在施設で、16室のベッドルームに加え、リビング、ダイニング、キッチン、ブレイルームなどが完備されているため、利用者は自宅と同じように過ごすことができます。

ドナルド・マクドナルド・ハウスの歴史は1974年フィラデルフィアから始まりました。

アメリカンフットボールの選手フレッド・ヒルが愛娘キムの白血病治療で入院したとき、狭いベッドで小さくなって眠る母親、食事を自動販売機の加工品ですませている付き添い家族の姿を目の当たりにし、病気の子どもとその家族のためにわが家のようにくつろげる第二の家を作りたいと考えました。

そこでフットボールチームの仲間、こども病院の医師、マクドナルドのオーナーと協力し募金活動を始め、フィラデルフィア新聞社主が提供した家屋を改装し世界第1号のドナルド・マクドナルド・ハウスが誕生しました。今では世界的に広がりを見せ、40か国以上に350以上のハウスがあり、患者家族の支援を行っています。

子どもが病気になったら最善の治療を受けさせたいと親は思い、遠方から通うご家族がたくさんいるのが現状です。家から遠く離れた病院に入院するこ

とになると経済的負担、遠方からの長い通院時間、病院で寝泊りする場合にはプライバシー保持の難しさなど、付き添いする家族には多くの問題が発生します。ドナルド・マクドナルド・ハウスは病院に隣接しているで家族と一緒にいられる時間が増え、経済的負担も少なく、ゆっくり休養もできるうえ、同じ境遇の家族同士のコミュニケーションで精神的支援も得られます。

日本では2001年に東京・世田谷に国内第1号ハウスがオープンし今年5月に国内11号目となる「神戸ハウス」が誕生しました。

家族の経済的負担を軽減するために、ハウスの運営費は、多くの企業や個人からの寄付や募金でまかなわれ、さらに運営は地域のボランティアによって支えられています。多くの方の協力があり、患者家族は1人1日1000円でハウスに滞在することが出来るのです。

より多くのご家族にハウスに滞在いただき、安心して看病に専念できるよう、ドナルド・マクドナルド・ハウス 神戸に対する温かいご支援をお願いします。



Concept コンセプト

● **基本理念** 周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

● 基本方針

1. 患者の権利を尊重した医療の実現
2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
5. 親とこどもが一体となった治療の推進
6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
7. 医療ボランティアとの協働による患者サービスの向上
8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



編集後記

暑い日が続く中、ほんの少しですが、日の短さが早くなり、着実に秋に向かっていく気配を感じています。とほいさ、まだまだ暑い日が続いております。体調に十分ご注意くださいませ。

げんきカエルは、これからもこども病院の情報を発信していきます。本誌に関するご意見やご感想をお待ちしております。

編集委員長：橋本ひとみ

編集委員：大津雅秀 大西美樹
井口秀子 山本正子
沼田康作 由良沙央理
石田佳人 福本宏文
中村典子

本誌に関するご感想・ご要望・ご質問はこちらまで



兵庫県立こども病院
HYOGO PREFECTURAL
KOBÉ
CHILDREN'S
HOSPITAL

〒650-0047
神戸市中央区港島南町1丁目6-7
TEL. 078-945-7300
FAX. 078-302-1023
<http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>